

第75回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（北海道大会） 実施報告書

事項	内容
事業名	第75回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（北海道大会）
期日	令和5年10月26日（木）から10月27日（金）
開催場所	カナモトホール（札幌市民ホール）2階第1～6会議室（北海道札幌市中央区北1条西1丁目）
主催	東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会
後援	◎北海道教育委員会 ◎NHK札幌放送局 ◎NHK出版 ◎北海道高等学校定時制通信制教育振興会 ◎北海道高等学校長会 ◎公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部
参加者	18校 100/108名（参加/申し込み）（来賓、NHK、NHK出版等含む）
実施目的	高等学校通信制教育において、東北・北海道実施校相互の理解と認識を深め、現在及び将来における種々の問題に対する研究協議を行う。
実施内容	令和5年10月26日（木） 開会式（13:00～13:25） 総会（13:30～13:55） 〔研究協議会〕（14:10～16:30） 第1分科会（教育課程・学習指導） 31名 第2分科会（進路指導） 23名 第3分科会（生徒指導） 19名 第4分科会（放送教育） 18名 令和5年10月27日（金） 〔全体会〕（9:10～10:10） 分科会報告・全通研報告 〔記念講演〕 10:20～11:40 講師：西永 聖 氏（星槎大学副学長） 演題：「発達障害と合理的配慮」 閉会式（11:40～12:00）
参加費	加盟校：5,000円 一般参加：-
成果	東北・北海道地区において、新型コロナウイルス感染症の影響もあり令和元年度を最後に対面型の研究協議会を実施できなかったが、無事開催することができた。 ◎第1分科会 ○「個別最適化」を目指す自律的学習者の育成 クラーク記念国際高校 工藤 浩輔 教諭 全日型通信制教育に取り組んでいるクラーク記念国際高校は、学校独自のカリキュラムを活かした講座を多く取り入れ、主体的に学ぶ環境を準備している。その中で、個別最適な学びと協働的な学びを支えるコーチング、リフレクションの仕組みづくりを行い、成長を可視化し自信につなげる学びの紹介があった。 ○本校の現状と課題 山形県立庄内総合高等学校 菅原 秀記 教諭（代理 丸谷教頭） 令和3年度に鶴岡南高等学校通信制開課程により平成4年度より通信制開課程した全日、定時、通信の3課程併設校移行期間における生徒の受け入れ態勢や併修制度の継続と、スクーリング日程の増加、面接指導時間の設定など見直しなどに取り組んできた。また、生徒の様子を確認し、レポートの提出状況向上の工夫や学力定着のための期間を設定するなど、開設後も改革に取り組んでいる。多様性の中で煩雑になっていた業務の整理などを行い、合理的な対応で生徒に向かい合う様子の紹介があった。 ◎第2分科会 ○本校の進路指導・キャリア教育も取り組みと課題について 北海道有朋高等学校 中島 敏博 教諭 新たにキャリア教育の体制を作り、進路相談会の増、進路のしおり刷新、キャリアノートなど、生徒が取り組みやすい環境を設定するとともに、ハローワークなど外部機関の活用で、より効果的な進路指導が可能になった紹介があった。 ○本校の進路指導の現状と課題について 福島県立郡山萌世高等学校 会川 秀明 教頭 独立した進路指導部ではないが、生活指導部の中で進路指導を実施。補助教材としての通信を年複数回、相談会の実施、セミナーや面談など増やして、就職意識を高めている。決定後の辞退もこれまでであったとのことだが、ミスマッチ防止のための情報提供やスキル向上、内定後のアフターフォローなど重点を置き、Well-beingの実現を目指している。 ◎第3分科会 ○本校の現状と課題 青森県立北斗高等学校 川村 久夫 教諭 研修、生徒会活動の充実、特別活動の充実など、前年度課題から活動重点を設定し実施。研修では、ICT意識向上などに取り組み、アンケート等をWebを活用することができた。また、他の参加確認などにも活用できるため、より意識的にICT

	<p>を使用するようになってきた。行事参加を促すポスター作成など、先生方の意識が変化する</p> <p>○規制緩和後における新たな学校行事への取り組みについて 岩手県立杜陵高等学校 阿部 雄至 教諭</p> <p>行事等への参加率の悪さが課題だったが、この数年の参加率は非常に高く、コミュニケーションが苦手な生徒がなぜ行事への参加を希望するようになったのか、という視点から、全日制の当たり前にあこがれている生徒の様子が見て取れた。縮小傾向にあった行事を再び実施することで、生徒の思いにこたえる学校生活を提供する環境になった。</p> <p>◎第4分科会 放送教育 研究発表はなく、情報共有中心の分科会</p> <p>事例紹介 NHK 高校講座の新しい機能を生かした事例や、他校の事例を共有。特に、ガイドラインに沿った放送視聴のあり方に意見が寄せられ、多くの高校で生徒に合わせた学びの場を考えている様子があった。</p> <p>研究協議では参加者からの質問も多く、助言者からの意見を参考にすることができた。研究発表した高校のみならず、参加した高校からも、高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドラインの解釈や取り組み事例などは、非常に助けになる研究協議会であり、ガイドラインへの共通理解が深まったと声をいただいた。</p> <p>記念講演では、現在の通信制高等学校に通学する生徒理解について、発達障害の定義や発達段階のずれなど、専門的な知見を、わかりやすく深く伝えていただき、今後の生徒理解や指導の充実に寄与できたと感じている。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

分科会	分野・教科	発表学校名	発表テーマ等
第1	教育課程 学習指導	クラーク国際高等学校	「個別最適化」で目指す自律的学習者の育成
		青森県立 尾上総合高等学校	本校の現状と課題
第2	進路指導	北海道 有朋高等学校	本校の進路指導・キャリア教育の取組と課題について
		福島県立 郡山萌世高等学校	本校の進路指導の現状と課題について
第3	生徒指導	青森県立 北斗御高等学校	本校の現状と課題
		岩手県立 杜陵高等学校	規制緩和後における新たな学校行事への取組について
第4	放送教育	発表校無しのフリーディスカッション アドバイザー NHK エデュケーショナル	
講演会	講師名(所属・職名)		講演題
	西永 堅(星槎大学・副学長)		「発達障害と合理的配慮」